

平成 2 9 年度 地域福祉コーディネーター 活動報告

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課 地域支援係

目次

はじめに	2
1. 江東社協版地域福祉コーディネーターについて	3
2. 地域福祉コーディネーターの設置状況	5
3. 平成 29 年度 相談・支援実績	7
4. 平成 29 年度 地域福祉コーディネーター行動記録	9
5. 平成 29 年度 地域福祉コーディネーター活動事例集	12
6. 江東区社会福祉協議会 地域福祉推進課地域支援係 事業報告 . .	32

はじめに

東京オリンピックを間近にひかえ、「50万都市」として発展し続ける江東区は、全国でも最も活気に満ちあふれた自治体のひとつであります。

しかし、低迷する経済状況を背景とした、生活困窮者世帯の増加や社会的孤立、引きこもり、虐待など、全国に広がり深刻化する社会問題については、江東区でも例外ではありません。これらの課題に対応するべく、行政をはじめ、社会福祉法人、NPOなど、様々な団体が行っていますが、地域の結びつきの希薄化が進む社会状況の中で課題の潜在化が進んでおります。

江東区社会福祉協議会では、「誰かが課題に気づくこと」や「困ったときに助けを求められる（環境を作る）こと」が重要であるとし、平成26年度に策定した「第三次地域福祉活動計画」において、これまで進めてきた住民の自主活動の活性化とともに、それを支援する地域福祉コーディネーターの育成・配置を重点事項に位置づけました。

そして、平成28年度より区内を4つの生活圏域に分け、各地域に2名、計8名の地域福祉コーディネーターを配置しました。

2年目を迎えた平成29年度には、新たに、地域福祉コーディネーターと連携・協働して地域の困り事を発見し、解決に向けた取り組みを行う地域ボランティア「地域福祉サポーター」の育成に取り組みました。

また、地域の拠点「社協カフェ」において交流サロンや連絡会を実施し、地域との新たなつながりを構築してきました。こうした活動を通し、寄せられた相談や実施した個別支援・地域支援の概要を本報告書にまとめました。

今後は、本報告書にあるように複雑かつ困難な相談が多く寄せられている現状を踏まえ、地域支援のノウハウを蓄積し、地域福祉コーディネーターの能力を向上していくと共に、従来の制度や組織では対応できない「制度の狭間」にある課題に積極的に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを推進していきます。

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課

1. 江東社協版地域福祉コーディネーターについて

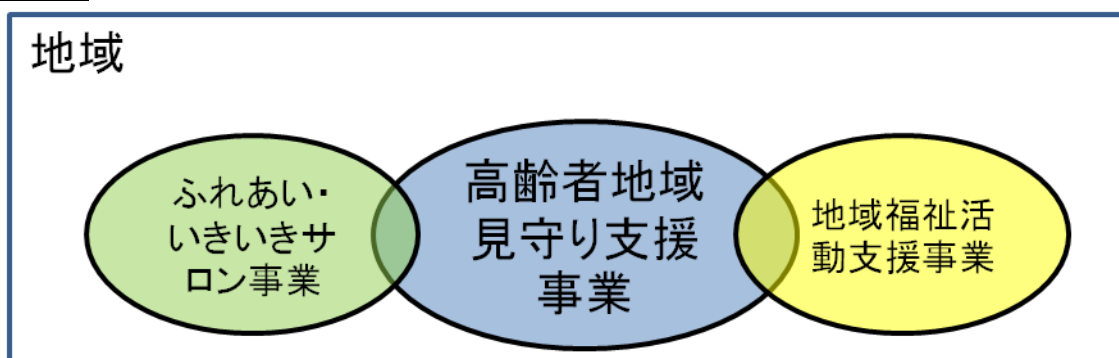
■ 地域福祉コーディネーターの役割

地域社会の人間関係が希薄化する中で、社会的孤立の問題は更に潜在化し、公助や互助が必要でありながら、サービスに結びつかない案件が増えています。こうした「制度の狭間」で見えなくなっている問題や、助けが必要でも声を上げることのできない人を発見し、行政や地域の皆さんと協力しながら必要な支援に結びつけていくことが地域福祉コーディネーターの役割です。

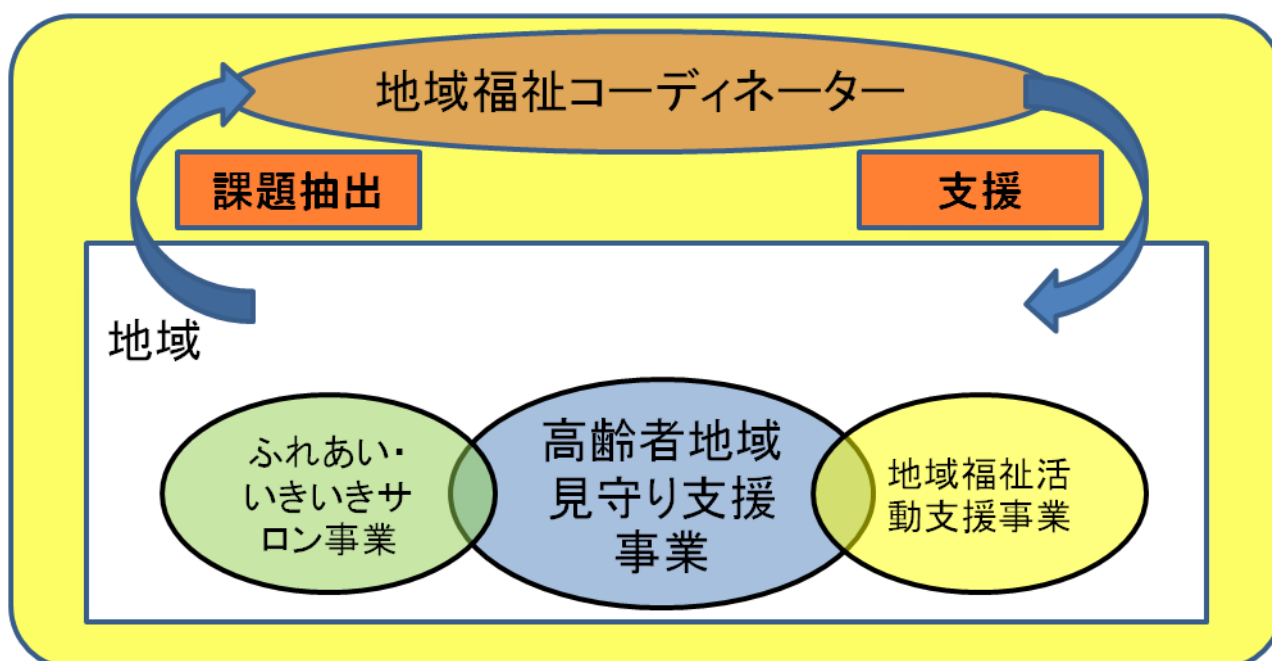
■ 地域福祉コーディネーターの取り組み

江東社協版地域福祉コーディネーターは、これまで社協が培ってきた地域とのつながりや「高齢者地域見守り支援事業」「ふれあい・いきいきサロン事業」等の既存事業を活用して地域課題を抽出し、課題解決に向け地域の皆さんや行政と協力しながら支援に取り組んでいます。

設置前



設置後



■地域福祉コーディネーターが実施する主な事業

○高齢者地域見守り支援事業

高齢者の社会的孤立や孤独死を防ぎ、区民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民が主体となって取り組む見守り活動や支え合いの体制づくりを支援します。具体的には、先進地区の視察、セミナーの開催などを通じて見守りサポート地域を支援しています。

○生活支援コーディネーター

介護保険制度関連の生活支援サービスの提供に向けた、地域資源の開発やネットワークの整備を行うとともに、区内4地域における情報の共有、連携強化の場となる「下町支え合い会議」などを開催しサービス提供体制の整備を図っています。

○ふれあい・いきいきサロン

高齢者、障害者、子育て中の親子などが孤立しないよう、地域住民が自主的に運営していく仲間づくりの場の立ち上げから運営を支援しています。

○地域福祉活動支援事業

①拠点整備事業

地域福祉コーディネーターの活動拠点を区内4カ所に確保し、交流サロン（現：社協カフェ）にて、福祉総合相談、ボランティア相談、各種イベント、地域との連絡会等を開催しています。

②支援事業

地域団体（町会・自治会、マンション管理組合など）、ボランティアグループ、NPOなどが行う地域福祉活動（互助活動）などを支援しています。

例：見守りサポート地域等の運営支援

こども食堂

多世代交流の里 すなまちよっちゃん家

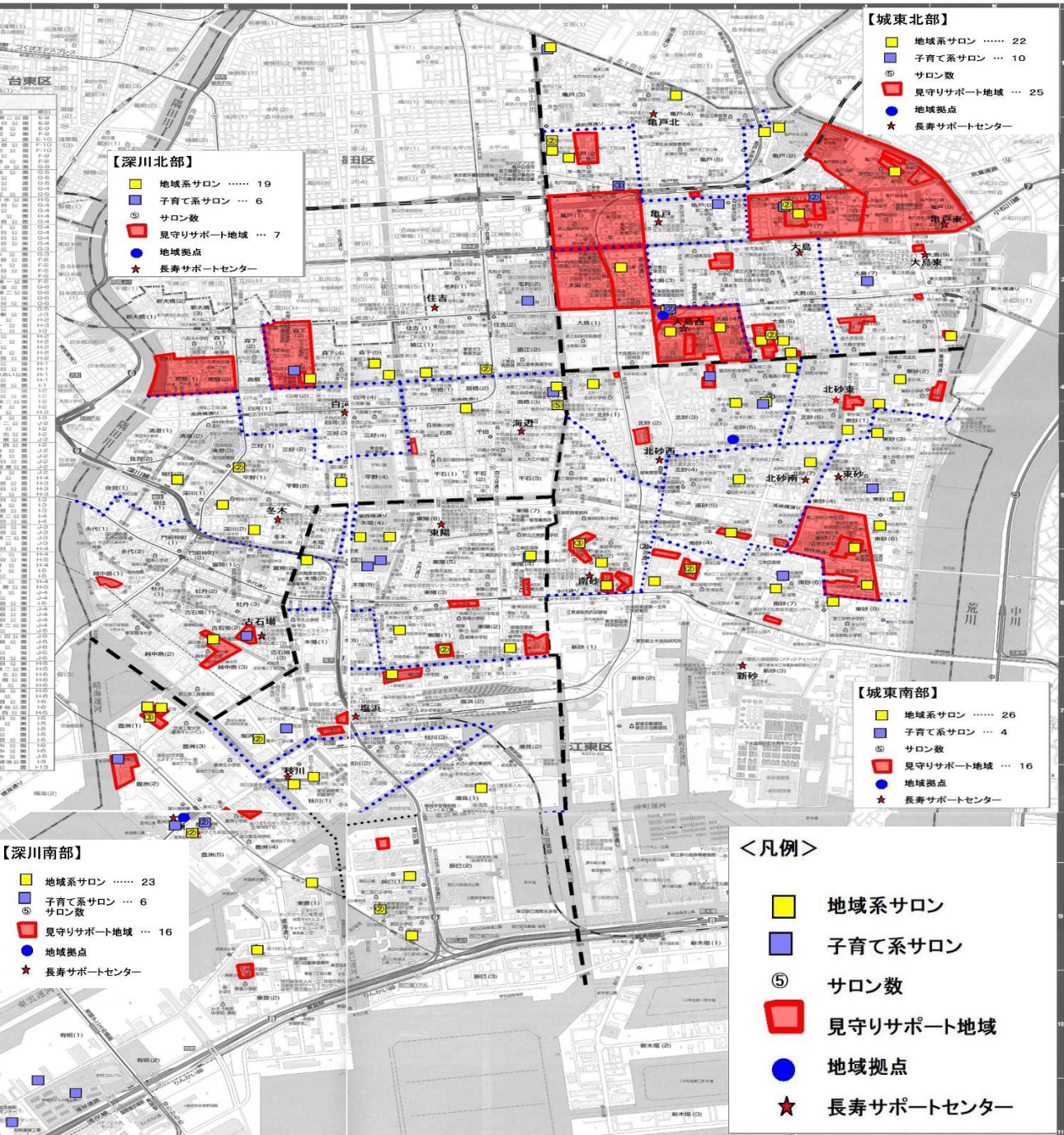
2. 地域福祉コーディネーターの設置状況



地域福祉コーディネーターの設置については、平成 28 年度より、生活圏域を基礎に区内を 4 地域に分け、地域毎に職員 2 名（常勤・嘱託）を配置しました。

地域福祉コーディネーターは地域にある資源を活用し、地域の問題の把握に努めております。地域での問題に対しこれらの資源と連携し、つなぐことで支援をしております。（次項「江東区内地域活動マップ」参照）

<江東区内地域活動マップ>



区内 4 地域 地域資源

地域資源 地域	地域系サロン	子育て系サロン	サポート地域	長寿サポートセンター
城東南部	26	4	16	6
城東北部	22	10	25	6
深川南部	23	6	16	4
深川北部	19	6	7	5

3. 平成 29 年度 相談・支援実績

新規相談件数（前年度との比較）

地 区	相 談			
	個別相談		地域相談	
	H28	H29	H28	H29
城 東 南 部	36	35	29	30
城 東 北 部	23	27	20	42
深 川 南 部	19	26	44	45
深 川 北 部	14	12	40	23
合 計	92	100	133	140

個別相談…地域において生活上の課題を抱える個人や家族に対する相談

地域相談…住民が主体となる地域活動の立ち上げや運営に関する相談

主な相談内容（個別）

- ・隣人から嫌がらせを受けている。なんとかして欲しい。
- ・風呂釜を取り替えて点火できない。（独居高齢者）
- ・生活に困っている。食品を提供してくれる団体を紹介して欲しい。
- ・夫婦と子どもの３人暮らし。生活が苦しい。
- ・お友達がほしいのでサロンを紹介してほしい。
- ・外出をしない認知症の方へどのような支援を行えば良いかわからない。
- ・部屋をリフォームしたい。重い家具をなんとかしてくれないか。
- ・今後の生活への不安について相談したい。

主な相談内容（地域）

- ・助け合い活動をスタートしようと思っているが、先が見えない。相談に乗ってほしい。
- ・サロン・こども食堂を立ち上げたい。
- ・空き店舗を利用して、食事付きの高齢者の通いの場を作りたい。
- ・子育てと学習支援の場を作りたい。
- ・体操の指導者を紹介して欲しい。
- ・高齢者のみでない若い世代を取り込むサロンとするノウハウが欲しい。
- ・書道で居場所づくりを考えている方がいて相談したい。
- ・マンション内活動（行事）の保険について知りたい。
- ・マンション内で食事会をやりたいが、自治会に反対され困っている。

相談経路

(個別相談)

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治会	近隣 住民	ボラ ン ティア	NPO 任意 団体	その 他	合計
城東南部	23	0	8	1	0	1	0	2	35
城東北部	8	0	6	5	4	2	1	1	27
深川南部	10	3	8	0	4	0	0	1	26
深川北部	7	0	3	0	0	2	0	0	12
合 計	48	3	25	6	8	5	1	4	100

(地域相談)

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治会	近隣 住民	ボラ ン ティア	NPO 任意 団体	その 他	合計
城東南部	3	1	8	4	0	1	12	1	30
城東北部	3	1	6	14	1	2	12	3	42
深川南部	3	0	11	5	10	2	13	1	45
深川北部	2	0	9	3	2	0	6	1	23
合 計	11	2	34	26	13	5	43	6	140

相談に対しての支援件数

	個別支援	地域支援	合計
城東南部	191	495	686
城東北部	221	564	785
深川南部	502	1044	1546
深川北部	64	497	561
合 計	978	2600	3578

4. 平成 29 年度 地域福祉コーディネーター行動記録

全統計（前年度との比較）

		個人直接支援			個人間接支援			地域支援				合計
		関係形成	個別支援	連絡調整	関係形成	支援	連絡調整	関係形成	ネットワーク化	運営・活動支援	連絡調整	
城 東 南 部	H29 (H28)	61 (30)	19 (39)	21 (26)	19 (5)	13 (21)	58 (28)	45 (47)	25 (34)	225 (141)	200 (88)	686 (459)
城 東 北 部	H29 (H28)	15 (13)	33 (20)	23 (37)	8 (2)	8 (2)	134 (21)	22 (29)	54 (14)	88 (50)	400 (148)	785 (336)
深 川 南 部	H29 (H28)	22 (5)	77 (18)	44 (12)	7 (4)	19 (51)	333 (8)	31 (49)	55 (44)	324 (134)	634 (301)	1546 (626)
深 川 北 部	H29 (H28)	14 (11)	27 (12)	5 (14)	0 (5)	6 (8)	12 (16)	74 (58)	14 (18)	62 (29)	347 (72)	561 (243)
合 計	H29 (H28)	112 (59)	156 (89)	93 (89)	34 (16)	46 (82)	537 (73)	172 (183)	148 (110)	699 (354)	1581 (609)	3578 (1664)

行動内容分類

- | | |
|------------|--|
| (1) 個人直接支援 | 地域福祉コーディネーターが当事者に直接関わること |
| 1 関係形成 | 当事者との関係づくりのための行動 |
| 2 個別支援 | 直接支援のための行動 |
| 3 連絡調整 | 当事者本人との諸連絡・情報提供・情報収集・調整（訪問日・相談日の確認）等 |
| (2) 個人間接支援 | 地域福祉コーディネーターが当事者のために他の機関や団体と相談・調整すること |
| 1 関係形成 | 関係団体・グループとの関係づくりのための訪問・会議への出席、イベント参加 |
| 2 支援 | 間接支援のための行動 |
| 3 連絡調整 | 関係者との諸連絡・情報提供・情報収集・調整、書類渡し、会議調整等 |
| (3) 地域支援 | サロン・居場所づくり、町会・自治会支援、（外部との）企画打合せ・調整すること |
| 1 関係形成 | 地域住民・団体・グループの関係づくりのための訪問 |
| 2 ネットワーク化 | 地域団体・グループの立ち上げ支援、活動の立ち上げ支援及びネットワークの形成 |
| 3 運営支援 | 地域団体・グループ立ち上げ後の運営支援、見学、調査等 |
| 4 連絡調整 | 地域住民・団体・グループとの連絡や調整、地域福祉サポーターとの連絡調整 |

5. 平成 29 年度 地域福祉コーディネーター 活動事例集

目次

1. 生活に不便を感じている一人暮らし高齢女性への支援
2. 認知症を抱えた高齢者への支援（ゴミ屋敷）
3. 複雑な家族問題を抱える高齢者への支援
4. 認知症の疑いがある高齢者への支援
5. 転入したばかりの独居高齢者への居場所支援
6. 近隣からの音に悩む高齢者への支援
7. 透析で通う病院入り口の段差に悩む方への支援
8. 精神疾患の疑いのある隣人から嫌がらせを受けている方への支援
9. 地域福祉サポーター 体操指導ボランティアの養成
10. 寄附物品が地域をつなげる

生活に不便を感じている 一人暮らし高齢女性への支援

相談内容

- 相談者 風呂釜設置業者
- 相談内容

風呂釜が故障し、本人同意のもと新しいものに付け替えたが、何度教えても1人では点火することができない。また、団地内に親しい隣人もいないようで、生活面でも問題を抱えている可能性がある。地域を巻き込んで（見守り等）、どうにかできないだろうか。

支援の流れ

① 情報収集

住んでいる団地は見守りサポート地域ではなく、民生委員が欠員となっている。また、長寿サポートセンター（地域包括支援センター）に支援の経緯があるかを確認したが、情報はなく介護保険も未申請とのこと。

② 訪問調査

初回、社協職員のみで訪問調査を行い、2回目から風呂釜業者と同行した。生活面は自立しているようにみられ、受け答えもしっかりしている。

「今は元気でどこも悪いところはなく、何も要らない。」とやんわり支援を拒否した。しかし、部屋の両脇にトイレットペーパーとティッシュペーパーが天井まで積み重ねられており、臭気が漂っている。

「今度来るときは、お茶をだすわ。」などと話し、社協には好意的だった。



▲両脇に大量のペーパーが積んである。



▲風呂釜点火説明書。

③ 継続的な訪問

風呂釜業者と数回訪問する。点火装置の写真を貼り付け、大きな文字で書いた手製の点火説明書を作成し説明した。このことにより、自分1人で風呂釜点火ができるようになった。

④ 近隣住民への支援の働きかけ

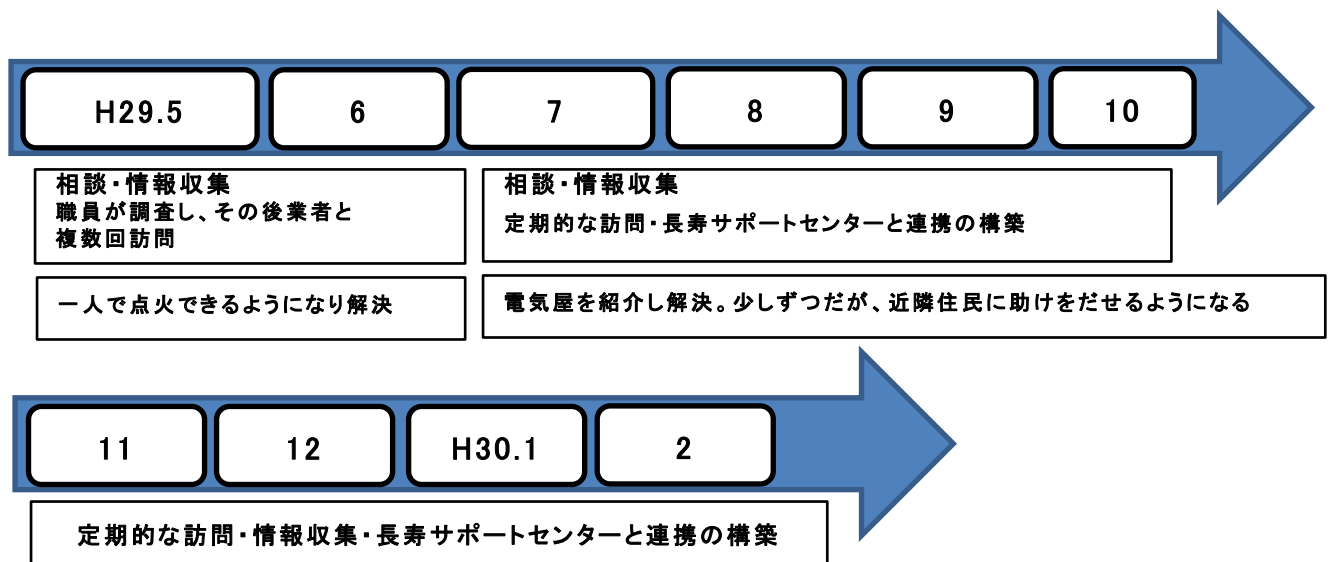
困ったときに近隣住民に助けてもらえるよう、本人と職員と一緒に1軒1軒回り関係を構築した。

⑤ 2ヶ月後に再度連絡が入る

「洗濯機の排水ができなくなり近隣住民に助けを求めたが、らちが明かなく困っている」と電話が入る。近隣の電気屋を紹介した。

⑥ 定期的に巡回し、経過観察

体調も良く、風呂釜や洗濯機は問題なく使用している様子。だが、社協職員が以前訪問したということを覚えているかは不明である。



成果

- 風呂釜点火・洗濯機の修理等生活する上での「ちょっとした困りごと」に対して、地域や社協に対して助けを求められるようになった。
- そのことにより安心して、生活できるようになった。

今後の方向性

認知面で問題を抱えている可能性が高い。今後は介護や福祉のサービス導入を図ることと、地域とのつながりをもてるようにすることを目標とした支援を続ける。

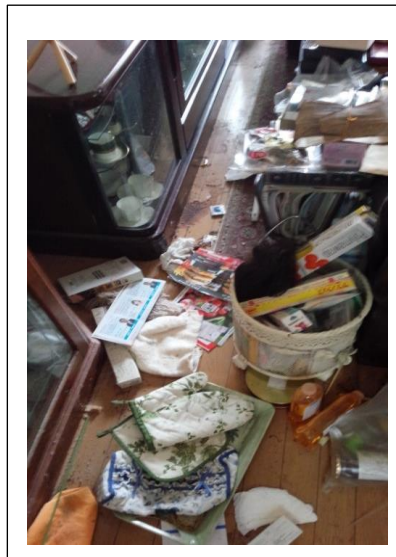
認知症を抱えた高齢者への支援(ゴミ屋敷)

相談内容

- 相談者：社協権利擁護センター
- 相談内容

結婚歴がなく分譲マンション一人暮らしをしており認知症（介護保険認定中・成年後見申し立て中）である70代の女性について。

認知症により居室内に生ゴミなどが散乱し、金銭管理にも不安が生じている。介護保険サービス利用に伴い、自宅にヘルパーが入れる状況ではないため、地域住民の協力を得て、室内の清掃と、緩やかな見守り体制を構築してほしい。

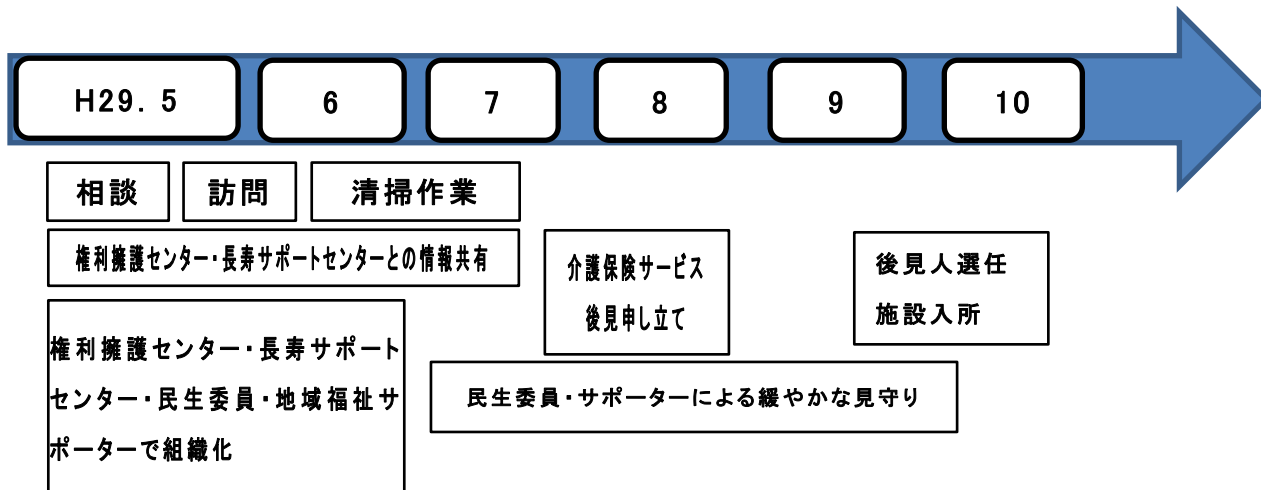


支援の流れ

相談が入り、現状確認のために訪問し、本人のニーズや課題を整理した。必要な支援をするために、ゴミの片付けと、本人と地域住民との関係づくりについて本人の同意をとる。

本人は、プライドによる支援の拒否が見うけられるため、同分譲マンションの住民ではなく、民生委員と地域福祉サポーター（※1）と権利擁護センター、長寿サポートセンター、地域福祉コーディネーターで組織化した。

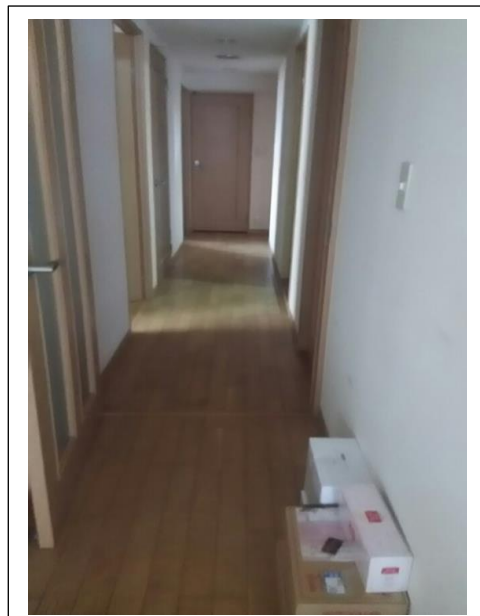
関係機関と密に連絡をとり短期間に何度も訪問を繰り返した結果、本人から支援を受け入れるとの連絡が入り、公的支援を受けることになった。



成 果

生ゴミが腐敗し悪臭も漂う状態の室内を改善し、衣食住の環境を整え、専門機関による公的なサービスが導入された。

また、民生委員、地域福祉サポーターなど地域住民による緩やかな見守りが開始された。



課題

今回は、生活ゴミ（可燃ゴミ）がほとんどであったので、マンション内の集積所に管理人に相談の上、大量のゴミを一度に破棄することができた。

今後粗大ゴミ、不燃ゴミなどが多い場合、ゴミの一時保管場所や収集日などの問題も生じることとなるので、清掃事務所、清掃リサイクル課にも情報提供し、協力関係を築いていく。

（※1）地域福祉サポーター

社協の『地域福祉コーディネーター』と一緒に地域の課題や困り事の解決に取り組んで頂ける、『地域福祉サポーター』の養成講座を修了したボランティアの呼称。

複雑な家族問題を抱える高齢者への支援

相談内容

- 相談者：民生・児童委員
- 相談内容

娘夫婦と孫（小学生）と同居している高齢女性が、娘夫婦に「出て行け」と四六時中言われ、家から追い出され閉め出されたりしている。娘は日中からお酒を飲んでおり家事をしない。孫のためと家事も買い物も本人がしているが、家族分の物を買ってもお金を渡されず預金も少なくなっている。自身の部屋はなく孫の部屋の隅でマットを半分にして寝ており、自分の所有物は捨てられてしまう。

家を出て一人で生活したいが、数年前に相談した機関には娘夫婦から先回りして連絡をされ、本人を認知症に仕立て相談が出来ないように仕向けられてしまった。どこに相談しようにも、娘夫婦に手回しされ相談を受け付けてもらえず、相談すること自体を諦めていた。

娘と婿は再婚同士で、孫は養父に度々暴言を吐かれている。孫も助けたいがどうしても出来ず、自分も家を出たいが相談先がなく途方に暮れている。

本人は認知症ではなくしっかりしているので相談に乗ってほしい。

支援の流れ

民生・児童委員の誘いにより社協が地域の交流サロンとして開催する「きらめきコミュニティ（現：社協カフェ）」に来所された。2回目（2ヶ月後）の来所時に本人から相談したいと言われ、福祉総合相談コーナーにてコーディネーターが話を伺った。2回目の来所までの間に、相談者である民生・児童委員が、丁寧に本人との関係を築いて来られた結果つながった相談のため、コーディネーターも慎重に関係形成を進めた。さらに本人の思いを確認するため、長時間に渡り数回話しを聞いて、本人の「家を出たい」という強い意志を確認した。娘夫婦の手回しがあるため、関係機関への連携は慎重に行った。

まずは長寿サポートセンターへ支援を依頼するため、長寿サポートセンター職員と地域福祉コーディネーターと本人との三者で会う機会を設け、本人の今後の生活の希望を確認した。

娘夫婦と同居している家を出て一人で生活したいという強固な意志が確認出来たところで、家族（婿）に連絡をし、本人と家族（婿）、長寿サポートセンタ

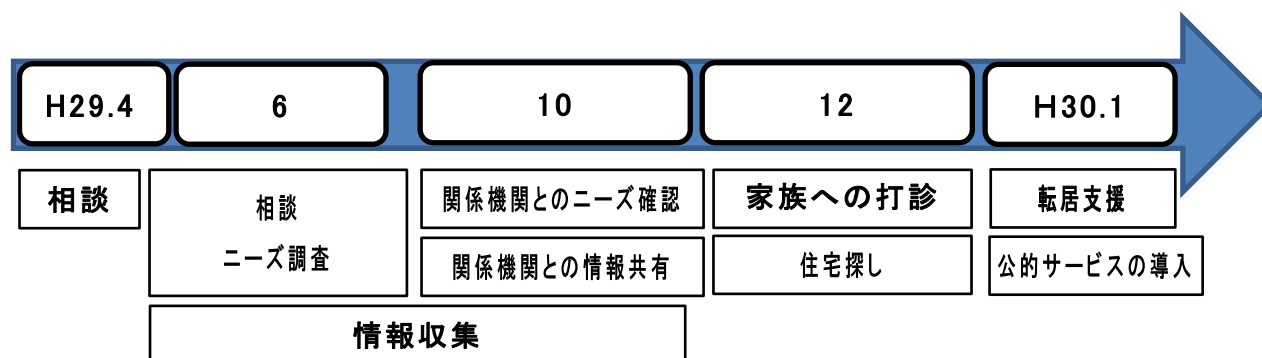
一、社協との四者での話し合いの場を設けた。そこで本人が家を出ることの説明を行い、家族より了承を得た。

了承を得てからは住まい探しの支援を始める。はじめは関係機関に対する本人の不安が強かったので、長寿サポートセンターと地域福祉コーディネーターとで協力して本人と一緒に住まいを探し始めた。本人の不安が取れてきたところで、長寿サポートセンターに支援全般を任せた。

区の住宅サポートを利用し、無事に部屋の契約に至る。本人の転居支援等長寿サポートセンターが手厚くサポートをして、無事に一人での生活を始めることが出来た。

【関係機関】

長寿サポートセンター、こども家庭支援センター、児童相談所、住まいのサポート（住宅課）、権利擁護係ほか



成 果

関係機関と協働して支援を進めることが出来た。家族の中に複雑な問題が絡み合っているため、多機関連携が必須であったが、今まで関わりのなかった機関を含め複数の機関と連携することが出来たことは、今後の他ケースにもつながり、大きな成果であった。

今後の方向性

家を出ることは出来たが、高齢のため足腰が弱っており体力の衰えが心配なことと、慣れない地域で一人生活して行く力が必要である。そのために、長寿サポートセンターへは、介護保険の申請等生活面の支援を担当してもらい、社協としては居場所の紹介等精神面の支援をしていくよう関係機関と役割分担を決めて支援を継続していく。

本人の支援が落ちついたら、娘家族の問題も関係機関と協議していくことを検討する。今後は本人が住まいから抜けたことで、複雑に絡み合っていた家族の問題が見えやすくなると考えられる。

認知症の疑いがある高齢者への支援

相談内容

- 相談者：近隣住民
- 相談内容

地域に住む女性が一人暮らしで福祉サービスも利用していない様子であり、認知症のようで心配である。

支援の流れ

地域拠点来場者の地域住民の方から相談時、服装の乱れが目立ち、家の外に出て、うろうろしている。同じ事を何度も聞くことや、近隣のスーパーで同じ物を購入していることもあり認知症のようであること。月に数回、遠方に住む息子が訪ねてきている様子であることの情報提供していただいた。

相談を受けた後、現状確認のため現地を訪問し、住宅の様子を確認、自宅前の薬局への聴き取りを行い、何かあったら連絡をして頂けるよう名刺をお渡しした。訪問中に、自宅から出てきた本人と接触することができ、挨拶、簡単な会話を交わす。話しかけられる事に拒否は見られない様子であった。

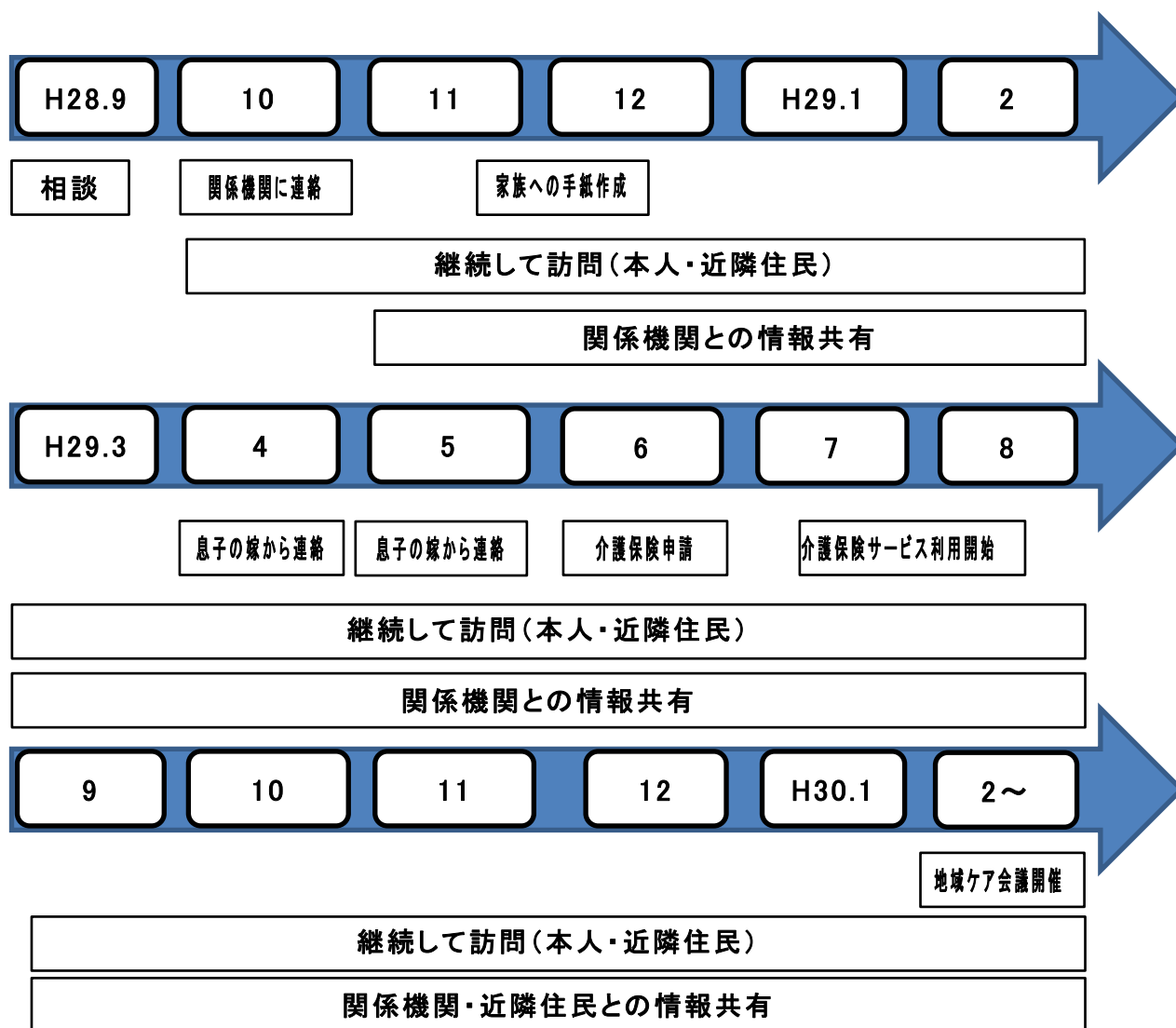
長寿サポートセンターへ連絡、情報提供を行い、現在までの支援経緯があるか確認したところ、現在認知症関連の服薬はあるが、家族の意向もあり福祉サービスの利用は未定とのことであった。

本人との交流（会話）・関係づくりを中心に、定期的な訪問を行う。その際、近隣住民の方から情報収集をするとともに、緩やかな見守りを願います。また、家族宛に、日中の居場所として近隣のサロンの紹介の資料と手紙を投函するなどして、働きかけをした。

その後、長寿サポートセンターへ、息子の仕事の都合で状況が変わり、福祉サービスの利用を検討したいと、息子の嫁より連絡が入る。今まで自分たちの住んでいる地域に本人を引き取ろうと試みたが、パニック状態になってしまうため、現在の状況になっているとのことであった。

介護保険サービス導入後、身支度の介助、入浴を定期的に行ったことで、本人の身なりも整い清潔感が感じられるようになった。

地域ケア会議を開催し、関係機関が一同に会したことにより、全体で情報共有をすることができた。



成 果

近隣住民にゆるやかな見守りをお願いしたことで、本人を気に掛けようとする地域の意識を高めることができた。それにより訪問の都度近隣住民から情報を得ることができ、変化があった際には連絡をもらうことができるまでの関係をつくることができた。

また、地域福祉コーディネーターが関係機関に情報提供をすることで、結果的に介護保険サービス導入につながることができた。

今後の方向性

現在、ヘルパーへの支援拒否や、自宅がわからなくなる等、認知機能の低下が進んでいる。日頃から本人を見ている地域住民は、一人暮らしに限界を感じている。また、息子夫婦の間で、今後についての考え方が異なっている様子である。本人には一人暮らしの寂しさがあるように見受けられるため、今後も定期的に訪問し、地域住民から情報を得ながら、関係機関と連携し、支援を継続して行きたい。

転入したばかりの独居高齢者への 居場所支援

相談内容

- 相談者：長寿サポートセンター
- 相談内容

区内に転入したばかりでどこにも行き場所がない独居高齢者がいる。どこか行ける居場所がないか。

併せて、転入したばかりで一人ではバスに乗れず外出できないため、社協のふれあいサービスで外出支援はできないか。

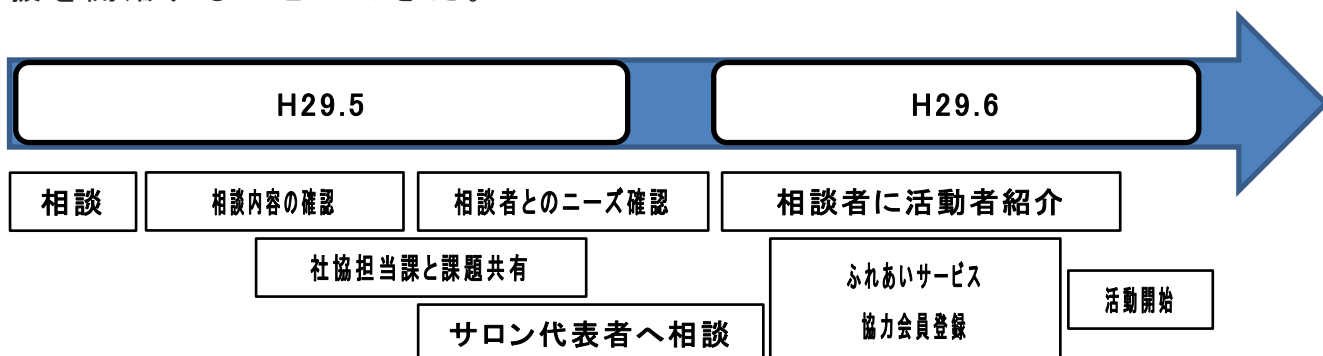
支援の流れ

相談を受けて、居住地域近隣の居場所となるふれあい・いきいきサロンと社協が支援している総合事業の試行事業であるサービス B(ご近所ミニデイ)を紹介する。

また、一人では外出できないとのことで、近隣にふれあいサービス協力会員がいるかをふれあいサービス担当課に相談した。しかし、本人居住地の近隣には協力会員がいないことが判明したため、ふれあいサービス協力会員以外での支援者を検討したところ、ふれあい・いきいきサロンの代表者が本人の近隣に居住していることがわかり、そのサロン代表者へ相談を持ちかけた。

サロン代表者は社協のファミリー・サポート事業の協力会員でもあった。ファミリー・サポート事業のように、活動中に何かあった場合の保険があるならば支援が可能との回答だったため、ふれあいサービス協力会員への登録を依頼。タイミング良く数日後に「ふれあいサービス協力会員事業説明会」が開催されるとのことでご参加いただいた。

サロン代表者が無事にふれあいサービス協力会員に登録し、本人への外出支援を開始することができた。



成 果

長寿サポートセンターとの連携が取れた。また、ふれあい・いきいきサロンの代表者が本人の近隣在住だったことから、社協のふれあいサービス協力会員になっていただくことができ、新たな活動につなげられたことで、関係構築を図ることができた。

今後の方向性

対象者の居住地は転入者の多い地域で、ふれあいサービス、ファミリー・サポート事業共に協力会員の少ない地域である。また、ふれあい・いきいきサロンも登録団体が少ない地域であるため、社協事業のPRを強化していく。

近隣からの音に悩む高齢者への支援

相談内容

- 相談：80歳代 女性
- 相談内容

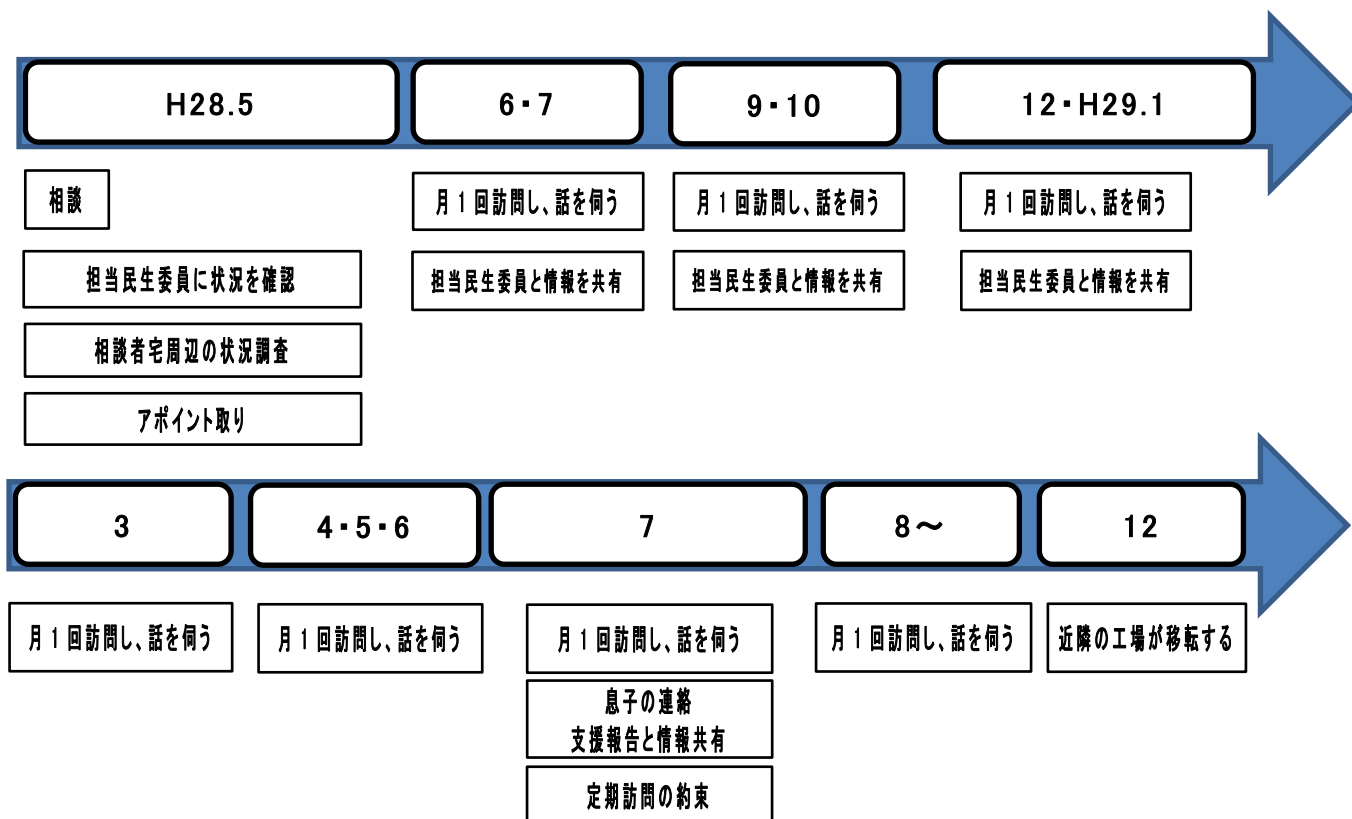
家族が亡くなり、一人暮らしになった。近所に工場が多く、夜間に音が酷くなり、気になって眠れない。別で暮らす子ども達にも相談したが、昼間は音が気になることがなく、仕方ないと言われた。音の状況を確認してもらえる方法はないか。

支援の流れ

担当地域の民生委員に状況を確認した後、自宅周辺の状況を訪問調査をして、音の状況もあわせて確認する。

まずは自宅へ訪問して本人の話を伺い、本人が望んでいることを把握した上で支援の方法を検討していくことが必要であると判断した。また、家族の状況や接点のある住民などを探し、情報共有を図っていくこととした。

夜間に音が気になってしまう背景には、家族の急逝による不安と寂しさがあるのではないかと考え、本人への支援は訪問して話を伺うことを基本とした。



成 果

相談当初は、相談者の家族関係や生活状況の把握、信頼関係づくりが難しかったこともあり、不定期に訪問していた。約1年を経過した頃には相談者との信頼関係もでき、相談の上、日にちを決めて定期的に訪問することとなった。訪問時には、30分から1時間程度本人の話を伺っている。

住民の話によると、相談当初は夜間に大きな音を出している所に対して怒鳴る様子も見られたが、支援に入ってから徐々に減っているとのことであった。定期的に訪問し、話を伺うことで徐々に本人の気持ちも落ち着いてきているようである。

今後の方向性

定期訪問については継続して実施していく。家族との情報共有の手段を模索していくとともに、関係者や関係機関との情報共有を図る機会を設定するか検討していく。

透析で通う病院入り口の段差に悩む方への支援

相談内容

- 相談者：本人
- 相談内容

透析で通っている病院のビルの入り口に段差があり、車椅子や杖を利用する高齢者には危険である。以前、病院にも言ったことがあるが、国の土地だからどうにもできないと言われたまま、段差は解消されていない。段差を無くすよう働きかけて欲しい。



支援の流れ

まずは現地の調査を行った。確かに段差があり、車椅子や杖歩行の方には危険を感じる場所であった。病院にも挨拶に伺うが、段差の話しが出るのは初めてではない、とのことであった。

近隣にスロープを設置している道路もある。相談者が訴えている段差があるビルに沿った道路は区道であった。区に問い合わせてみると、「段差解消工事をするのであれば、費用はビル敷地の持ち主負担となる。簡易的にスロープを置くのは危険なため、禁止としている」とのことであった。

ビルの持ち主である会社に聞いてみたが、各部署へと数回電話を回され、最後の回答は、「ビル管理を任せている会社に一任しているのでそちらへ連絡して」と言われ電話を終了せざるを得なかった。

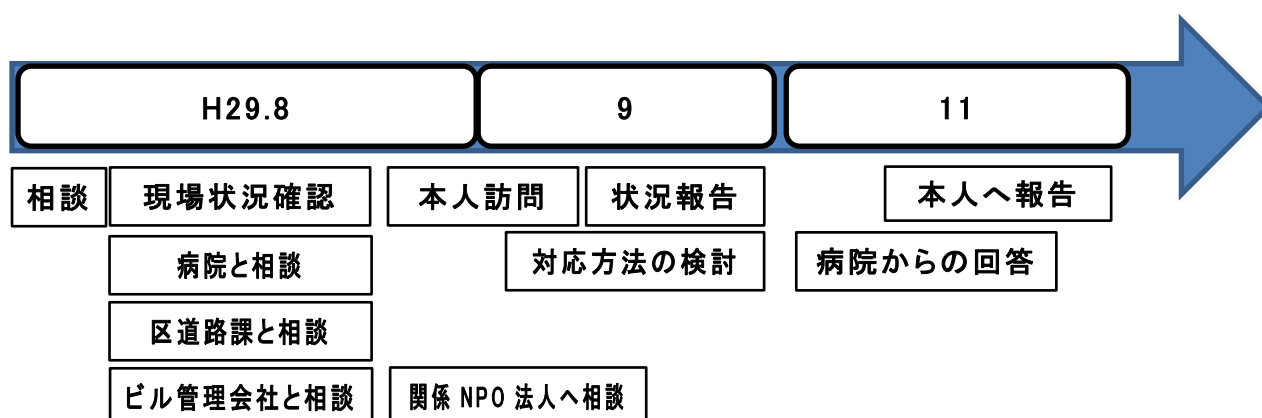
次にビル管理会社に連絡をすると、「病院とビル管理会社と社協を入れた三者で話し合いの場を持てるか？」との話しを持ち出されたため了承した。しかし、それを病院に伝え、「現在ビル持ち主会社に連絡をしており、回答待ちのため少し待つて欲しい」とのことであったため、待つこととした。

何か策はないかとバリアフリー化を進めている NPO 法人にも相談をしたが、解決につながるような回答はなかった。

それから数ヶ月過ぎても病院からの回答はなく、相談者からの問い合わせがあったタイミングで、再度問い合わせた。病院の回答は、ビル持ち主会社の好意的であった担当者が変わってしまい、話を通すのがさらに難しくなってしまったので、段差解消の実現はおそらく無理だろう、とのことだった。病院からは、「以前ビルに病院が入る時にも段差の件は、ビル持ち主会社に訴えたが解消されなかった。その分、病院は送迎をしており、介助者を付けて車からの乗降とクリニックまでの送迎を行っている。そのため段差はあるが、介助者がいるので危険はないとの見解もある。」とのことだった。

相談者は、これだけ多数の車椅子や杖利用の方（高齢者含む）が利用するビルなのだから、大きな事故になる前に段差解消工事をして欲しい、と訴える。

区の段差解消工事助成等も紹介したが、病院はビルの所有者ではないため、どうにも出来ないと回答があり、病院側は、送迎の車のみならず、介助者を付けクリニック前まで送迎していることもあり、段差解消工事にこぎ着けるのは難しい、と回答している。



成 果

病院、区道路担当課、ビル管理会社等に、ビル前道路と敷地との段差に不便を感じている区民がいるということを知らせることはできた。しかし、段差解消工事の施工に至るまでには進められていない。

今後の方向性

ご本人が納得されていない現在、支援継続中である（策を検討中）。区の助成金の情報等視野に入れつつ対応策を探していきたい。

精神疾患の疑いのある隣人から嫌がらせを受けている方への支援

相談内容

- 相談者：自治会住民
- 相談内容

隣人から嫌がらせを受けている。なんとかして欲しい。

支援の流れ

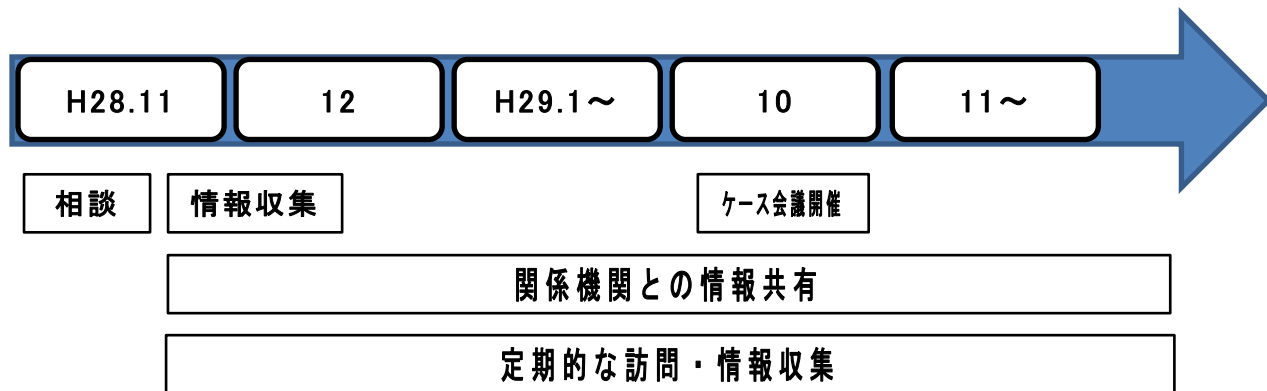
自治会訪問時に相談があった。嫌がらせの内容として、「自治会費を回収した際、会費を使い込んでいるのではないかと疑われた。」「夜中に壁を蹴る音が聞こえてくる。深夜にドアを叩き、音がうるさい、物を盗んだなどと怒鳴り込まれて、警察を呼んだこともある。」「隣人宅のドアに、泥棒へ向けた内容等の、数枚の張り紙が貼られている。」などのことがあったとのこと。

張り紙の内容と行動から、隣人が精神疾患を患っている可能性があるとして予測し、保健相談所に問い合わせを行い、情報提供をした。長寿サポートセンターへ問い合わせると、住宅の管理会社より、設置されている緊急通報ボタンについて、本人から「自宅を盗撮されている」との訴えがあり、自宅を訪問したとの記録があった。また、職員が過去に面識があり、その時の印象としては、明るい方だが、人間関係が上手くいかないと愚痴を漏らす一面もあったとのことであった。

生活保護受給者であることが判明し、ケースワーカーにどのような方か問い合わせると、「妄想癖があり思い込みは激しい面はあるが、攻撃的な印象は無い。以前は精神科に通っていたが、現在は通院していない。」との情報を得た。

自治会長が相談者と関係が深いこともあり、二人の様子や変化について、定期的に情報をいただけることになった。また、自治会長と相談者、地域福祉コーディネーターで話し合いの場を持った。

地域福祉コーディネーターとして、相談者がストレスを抱えているため、傾聴を中心に訪問し、隣人宅の張り紙等の状況確認も併せて行うこととした。



成 果

地域福祉コーディネーターが情報提供をしたことで、関係機関が支援へと動き出した。関係機関を一堂に会し、ケース会議を開催したことで、課題の共有をすることができた。

また、関係機関ごとの、隣人ならびに相談者の支援の役割分担を行うことができた。

今後の方向性

保健相談所、長寿サポートセンター、ケースワーカーが隣人宅を訪問して、関係づくりから始めているが、精神科受診への促しは、長い時間を要すると考えられる。

地域福祉コーディネーターの役割として、相談者の心のケア（傾聴）と、自治会長からの定期的な情報収集を行っている。

現在、隣人の症状は落ち着いている様であるが、季節の変わり目に症状が悪化する傾向があるため、同時に相談者への影響も大きいと考えられるので、今後も注意していきたい。

地域福祉サポーター 体操指導ボランティアの養成

地域課題

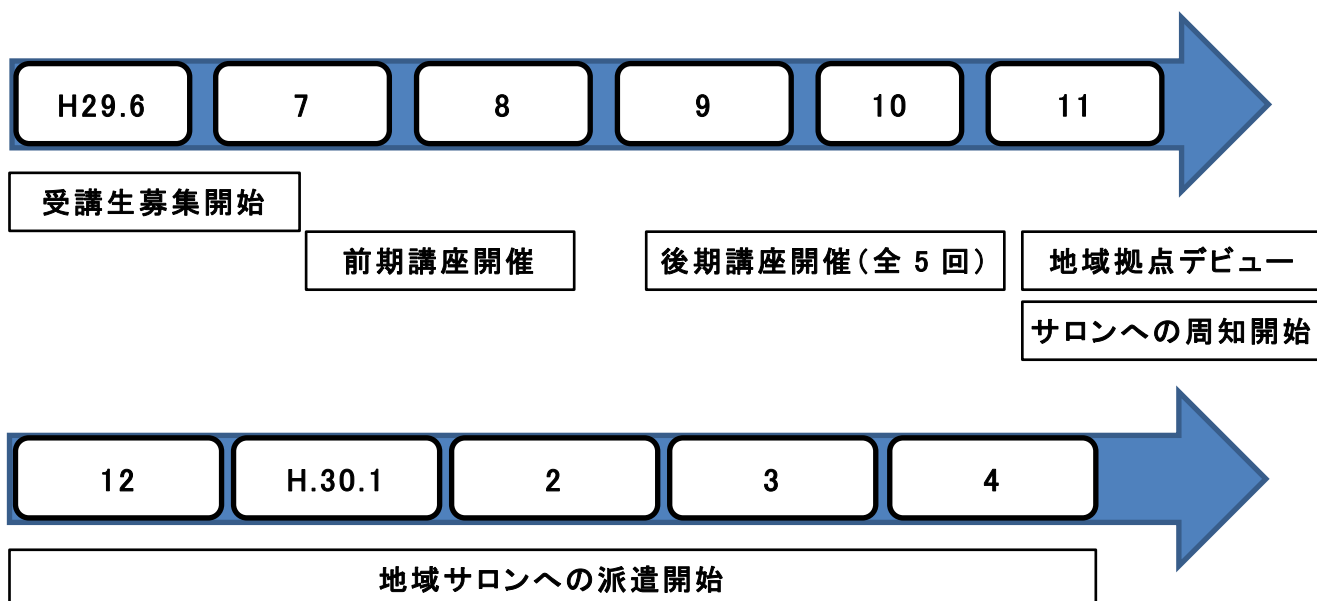
ふれあい・いきいきサロン事業に登録しているサロンの運営者などから、「サロンの活動日に体操の指導者を派遣してもらえないか」という声が寄せられることが多くなってきた。その声に応えるため、地域福祉推進課として体操指導ボランティアを養成することとした。

養成の流れ

平成28年度より実施していた「地域福祉サポーター養成講座」の中に、29年度からは体操の指導者を養成するための講座を組み入れることとした。

平成29年6月15日より募集を開始すると、定員20名のところ24名の応募があり、全員に受講していただくこととしたが、当日欠席された方が5名あり、19名でのスタートとなった。

体操指導ボランティアとして活動していただくための後期講座（公益財団法人体力づくり指導協会による体操実技）は、前期講座の修了者の中から希望制としたところ、15名の方が受講した。運動の習慣化について地域住民に指導できるようになることを目指す全5日間の日程で、“動”の運動ではなく“静”の運動である『ぜんぜん頑張らないうんどう』の指導方法について、楽しみながら体得していただいた。



成 果

9月7日から10月5日に行った後期講座を受講した15名には、顔写真入りの「高齢者体力づくり支援士証」が公益財団法人体力づくり指導協会より授与された。

意欲の高まっているうちに地域デビューを果たし、人前での体操指導に慣れていただくため、区内4箇所で行っている「きらめきコミュニティ」（※平成30年度から「社協カフェ みんなの居場所」に名称変更）の場での体操指導ボランティアを受講生の中から募り、10月18日から年度末までの12回の実施日に、延べ19名の方に地域住民への体操指導をボランティアとして実践していただいた。

同時に、ふれあい・いきいきサロン事業に登録のある全団体へも『ぜんぜん頑張らないうんどう教室 指導ボランティアのご紹介』として10月末にチラシを送付し、ボランティアの交通費実費弁償のみで体操指導のボランティアをご紹介できることを周知した。

この周知の反響により、11月からは早速紹介依頼が入るようになり、11月末から年度末までの間、9つのふれあい・いきいきサロンから全12回の派遣依頼を受け、全ての依頼にボランティアをマッチングすることができた。延べ13名のボランティアの方に地域での体操指導ボランティアデビューを果たしていただくことができ、サロンからは「大変満足した」「毎回でも来て欲しい」との声をいただいた。

今後の方向性

平成30年度も「地域福祉サポーター養成講座」を実施し、29年度同様公益財団法人体力づくり指導協会の協力のもと、体操指導ボランティアの養成を予定している。

実際に活動できるメンバーの数をより増やしていけるよう、平成30年度の「地域福祉サポーター養成講座」では定員を30名に増やす予定である。実際の活動メンバーが固定化しないよう、ボランティア募集の声掛けにも気軽に柔軟に対応していただけるよう、サポーターを支援していく。



後期講座を終えて



サロンでの体操の様子

寄付物品が地域をつなげる

相談内容

- 相談者：地域住民
- 相談内容

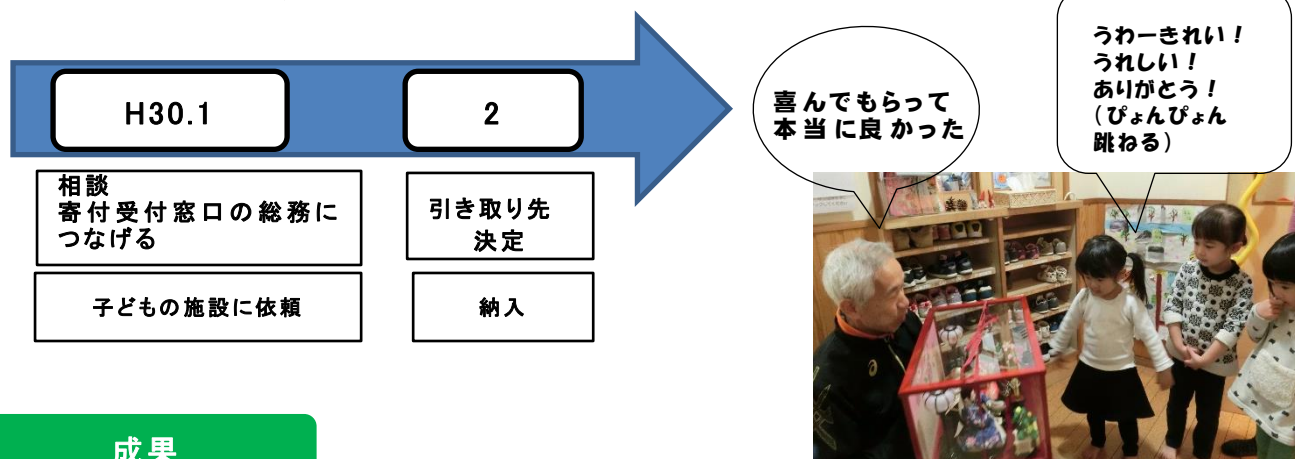
思い出のある雛人形だが、娘が独立し不要品となってしまった。地域の施設に役立てて欲しいと願っているが、つてがないので困っている。

支援の流れ

定年退職後、地域コミュニティの重要性を感じ、仲間と地域サロンを立ち上げた住民より「娘が使っていた雛人形を、子どもの施設に寄付できないだろうか。」と相談が入る。

よくよく話を聞いてみると、雛人形を処分したいのではなく、自分ができる範囲で地域貢献をしたい様子である。サロンに孫を連れて行くなど、多世代交流を行いたいと思っているようであった。

寄付受付窓口である社協総務課につなげ、区内保育所より受け取りの連絡をもらい、本人と職員が同行し、引き渡す。



成果

地域サロンを開設したもののマンネリ化を感じていたが、子ども達の喜ぶ姿を見て、一瞬にして報われたとの感想をいただいた。

雛人形の寄付は受け取り先が少なく、マッチングできるか心配だったが、上質でコンパクトだったのが功を奏しスムーズにつなげることができた。

反省点

今回だけの関係で終わらせてしまった。次につなげる方法を模索したい。

6. 江東区社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域支援係 事業報告

こちらの事業報告は
平成 29 年度事業報告並びに収入支出決算書
から引用しております。

地域福祉事業

(1) こども家庭福祉事業

実施年月日	説 明
年 間	1. 家庭訪問型子育て支援（ホームスタート） 子育ての不安解消、孤立化防止（孤独感の解消、親自身の心の安定）、虐待予防を目的に、NP0 こうとう親子センターへ事業委託。未就学児（6歳未満）のいる家庭に、オーガナイザーがマネジメントを行い、ホームビジター（ボランティア）が週1回程度、計6回訪問し「傾聴」「協働」などの支援をした。 ○経費総額 2,215,296 円 訪問家庭数 91 家庭 訪問回数 678 回 オーガナイザー 3 名 ホームビジター 60 名

(2) 高齢者地域見守り支援事業

実施年月日	説 明
年 間	ひとり暮らし高齢者の「孤独死」や、地域との関わりを持たない「社会的孤立」状態を未然に防ぐため、地域主体による高齢者の見守り体制の構築を支援した。 ○経費総額 26,838,413 円（区受託金） 1 サポート地域の育成・援助 平成29年度サポート地域（6地域） ・東京スイート・レジデンス自治会 ・塩浜自治会 ・メトロハイツ東陽管理組合法人 ・日商岩井亀戸マンション自治会 サポート地域 累計 60 地域（平成20～29年度）
29. 7. 20	①先進地区視察 地域住民主体の見守り活動の推進地区である、南砂住宅2号棟自治会への視察を行った。 全 1 回 参加者 21 名
29. 8. 26	②地域で見守り支え合いセミナー 講義「これからの地域に求められる支え合いの極意とは」、課題演習「地域が見えてくる支え合いマップづくり」を通じ、地域力アップの方法について学んだ。 全 1 回 参加者 31 名

29.11.27 ～30.2.21 随 時	③個別セミナー 平成 28 年度サポート地域において、支え合いマップづくり等を通じて地域課題を抽出し、今後の見守り活動の方策を検討した。 全 9 回 参加者 延 69 名 ④サポート地域への援助 サポート地域（現・準・旧）への訪問ならびに相談援助を行った。また、サポート地域連絡会を開催し、サポート地域間の情報交換やノウハウの共有、提供を行った。 全 2 回 参加者 延 111 名
29. 9.25 ～30. 2.27	2 高齢者地域見守り連絡会の開催 区内 8 圏域（白河・冬木・東陽・豊洲・亀戸・大島・南砂・東砂）にて連絡会を開催し、地域見守りネットワークの構築を図った。 全 8 回 参加者 延 468 名
29. 5.13 随 時	3 見守り活動の普及・啓発 ①地域で見守り サポート地域活動実践発表会 一般区民を対象に活動実践発表会を開催し、平成 28 年度サポート地域（ルネ門前仲町見守りボランティア・豊洲 5 丁目団地自治会・大島 8 丁目第一親和会・ヴェラハイツ緑道公園式番館管理組合・都営南砂 6 丁目第二アパート自治会）による高齢者地域見守り活動の取り組みに関する発表を行い、「見守り活動に関する説明」を行った。 全 1 回 参加者 65 名 ②見守り活動の普及・啓発 町会・自治会、民生委員、老人クラブ等を訪問し事業説明および、地域の見守り活動についての相談援助を行った。また、社協により、ホームページ、啓発チラシ等にて広報・PR を行った。

(3) 電話訪問事業

実施年月日	説 明				
年 間	区内在住 70 歳以上のひとり暮らしの方を対象に、週 1 回電話による訪問で安否の確認及び孤独感の解消を図った。 ○経費総額 5,034,759 円（区受託金） <table border="1" data-bbox="384 1825 1465 2027"> <tr> <td data-bbox="384 1825 671 1928">29 年度</td><td data-bbox="671 1825 1465 1928"> 訪問員 56 名 対象者 149 名 週 5 日実施 244 回 延 8,974 件 </td></tr> <tr> <td data-bbox="384 1928 671 2027">28 年度</td><td data-bbox="671 1928 1465 2027"> 訪問員 49 名 対象者 154 名 週 5 日実施 242 回 延 8,940 件 </td></tr> </table>	29 年度	訪問員 56 名 対象者 149 名 週 5 日実施 244 回 延 8,974 件	28 年度	訪問員 49 名 対象者 154 名 週 5 日実施 242 回 延 8,940 件
29 年度	訪問員 56 名 対象者 149 名 週 5 日実施 244 回 延 8,974 件				
28 年度	訪問員 49 名 対象者 154 名 週 5 日実施 242 回 延 8,940 件				

(4) 小地域福祉活動事業

実施年月日		説 明																																	
29.4.15 ～30.3.24	1	社協出前講座																																	
		職員が地域に出向き、福祉講座や情報提供を通じて住民の福祉に対する理解・関心を深め、住民主体の地域福祉の推進を図った。																																	
		○経費総額 41,314 円 全 12 カ所 参加者 延 233 名																																	
29.10.2	2	地域福祉セミナー																																	
		地域の課題解決に向けた講演会やセミナー等を開催した。																																	
		○経費総額 170,047 円 第 1 回「地域福祉フォーラム」～助け合い活動の必要性について～																																	
		(生活支援コーディネーター事業と合わせて実施)																																	
年 間	3	全 1 回 参加者 延 250 名																																	
		地域福祉活動支援事業（助成）																																	
		町会・自治会、マンション管理組合等が行う小地域福祉活動（地域福祉推進）に対して、運営費の一部を助成することにより小地域福祉活動を支援した。																																	
		48 件 1,440,000 円																																	
29.4.19 ～30.3.28	4	○経費総額 1,490,937 円																																	
		地域福祉活動支援事業（拠点整備事業）																																	
		事業運営の拠点となる「地域の拠点」を確保し、交流サロン（福祉総合相談、ボランティア相談を含む）、各種イベントを開催し、地域福祉コーディネーターが地域とのつながりを構築した。																																	
		○経費総額 239,000 円																																	
		全 24 回 (4 地域 各 6 回) 参加者 延 427 名																																	
		<table><tr><td></td><td colspan="2">城東地区</td><td colspan="2">深川地区</td></tr><tr><td></td><td>城東南部 砂町文化センター</td><td>城東北部 総合区民センター</td><td>深川南部 豊洲文化センター</td><td>深川北部 森下文化センター</td></tr><tr><td>コミュニティカフェ</td><td>48 名</td><td>58 名</td><td>82 名</td><td>30 名</td></tr><tr><td>講座・イベント ※1</td><td>49 名</td><td>56 名</td><td>79 名</td><td>14 名</td></tr><tr><td>ボランティア相談</td><td>2 件</td><td>1 件</td><td>2 件</td><td>0 件</td></tr><tr><td>福祉総合相談</td><td>2 件</td><td>2 件</td><td>2 件</td><td>0 件</td></tr></table>					城東地区		深川地区			城東南部 砂町文化センター	城東北部 総合区民センター	深川南部 豊洲文化センター	深川北部 森下文化センター	コミュニティカフェ	48 名	58 名	82 名	30 名	講座・イベント ※1	49 名	56 名	79 名	14 名	ボランティア相談	2 件	1 件	2 件	0 件	福祉総合相談	2 件	2 件	2 件	0 件
	城東地区		深川地区																																
	城東南部 砂町文化センター	城東北部 総合区民センター	深川南部 豊洲文化センター	深川北部 森下文化センター																															
コミュニティカフェ	48 名	58 名	82 名	30 名																															
講座・イベント ※1	49 名	56 名	79 名	14 名																															
ボランティア相談	2 件	1 件	2 件	0 件																															
福祉総合相談	2 件	2 件	2 件	0 件																															
		※1 生活支援コーディネーター事業の地域ボランティア養成講座・支え合活動の担い手養成講座を含む																																	

実施年月日	説 明
年 間	5 地域福祉活動支援事業（支援） 地域団体（町会・自治会）、ボランティアグループ、NPO 団体などが行う地域福祉活動（互助活動など）を支援した。 ①多世代交流の里 すなまちよっちゃん家 ②豊洲こども食堂 2 件 311,000 円 ○経費総額 317,636 円

(5) ふれあい・いきいきサロン活動事業

実施年月日	説 明																			
年 間	高齢者、障害者、子育て家庭等の孤立化防止を目的に、地域における住民同士の自主的な仲間づくり、居場所づくりであるサロン活動を支援した。 ○経費総額 4,549,779 円 （歳末たすけあい募金配分金 2,745,000 円） ○年度推移 <table border="1"> <tr> <th>区 分</th><th>24 年度</th><th>25 年度</th><th>26 年度</th><th>27 年度</th><th>28 年度</th><th>29 年度</th></tr> <tr> <td>登録サロン数</td><td>72 サロン</td><td>75 サロン</td><td>81 サロン</td><td>92 サロン</td><td>110 サロン</td><td>119 サロン</td></tr> </table>						区 分	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	登録サロン数	72 サロン	75 サロン	81 サロン	92 サロン	110 サロン	119 サロン
区 分	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度														
登録サロン数	72 サロン	75 サロン	81 サロン	92 サロン	110 サロン	119 サロン														

(6) 地域福祉コーディネーター事業

実施年月日	説 明																																							
年 間	地域の困りごと等の課題解決に向けた住民活動の支援をすることを目的に、区内４地域に８名の地域福祉コーディネーターを配置し、高齢者地域見守り支援事業、小地域福祉活動事業、ふれあい・いきいきサロン活動支援、生活支援コーディネーター事業を兼務して、地域課題の把握、相談、支援を行った。 ○経費総額 8,094,158 円 <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">相 談</th><th colspan="3">支 援</th></tr><tr><th>個別相談</th><th>地域相談</th><th>個別支援</th><th>地域支援</th><th>その他</th></tr><tr><td>城東南部</td><td>35 件</td><td>30 件</td><td>173 件</td><td>495 件</td><td>376 件</td></tr><tr><td>城東北部</td><td>27 件</td><td>42 件</td><td>222 件</td><td>565 件</td><td>187 件</td></tr><tr><td>深川南部</td><td>26 件</td><td>45 件</td><td>503 件</td><td>1,044 件</td><td>528 件</td></tr><tr><td>深川北部</td><td>12 件</td><td>23 件</td><td>64 件</td><td>497 件</td><td>347 件</td></tr></table>						相 談		支 援			個別相談	地域相談	個別支援	地域支援	その他	城東南部	35 件	30 件	173 件	495 件	376 件	城東北部	27 件	42 件	222 件	565 件	187 件	深川南部	26 件	45 件	503 件	1,044 件	528 件	深川北部	12 件	23 件	64 件	497 件	347 件
	相 談		支 援																																					
	個別相談	地域相談	個別支援	地域支援	その他																																			
城東南部	35 件	30 件	173 件	495 件	376 件																																			
城東北部	27 件	42 件	222 件	565 件	187 件																																			
深川南部	26 件	45 件	503 件	1,044 件	528 件																																			
深川北部	12 件	23 件	64 件	497 件	347 件																																			

(7) 生活支援コーディネーター事業

実施年月日	説 明
	高齢者の生活支援体制整備のため、生活支援サービスの担い手の養成・発掘やネットワーク化等を行う「生活支援コーディネーター」を配置した。 ○経費総額 9,469,130 円（区受託金）
29.7.10 ～30.3.20	1 地域資源ニーズの把握 ①長寿サポートセンターとの連携 長寿サポートセンターと連携し、地域課題や個別支援の解決に向け取り組む機会が増加した。また、地域住民から居場所づくりの相談を受けた長寿サポートセンターより生活支援コーディネーターに協力を求められ、協働して支援に取り組んだ。
29.7.10 ～30.3.20	地域ケア会議体等への出席 江東区地域包括支援センター運営協議会 全3回 参加者3名 地域ケア会議 全13回 参加者19名

随時	その他 合同 GPS 模擬訓練（認知症徘徊探索模擬訓練）、認知症エリアミーティング、長寿サポートセンター圏域民生委員懇親会、長寿サポートセンターとコーディネーターとの懇親会等へ出席した。※各会議等へは地域福祉コーディネーターと兼務 ②通所型生活支援サービス（総合事業サービス B） 平成 29 年度より、区の試行事業として住民主体の通所型サービス B（ご近所ミニデイ）が区内 4 カ所に開設された。 生活支援コーディネーターとして、開設に伴う支援（ボランティアの募集、案内作成、活動内容への助言等）を行った。 また、次年度に向け、区・長寿サポートセンター・生活支援コーディネーターの三者で連携し、新たな通所型サービス B の立ち上げ支援を行った。									
随時	2 地域資源の把握・開発 ①ふれあい・いきいきサロン情報の提供並びに共有 長寿サポートセンター職員より、社協の自主事業である「ふれあい・いきいきサロン」の情報を長寿サポートセンターへ提供・共有して欲しいとの要望があり、下町支え合い会議（協議体）においても懸案事項となった。 情報の提供・共有、並びに、長寿サポートセンターからサロン代表者への直接連絡（サロン参加を希望する方についての調整等）、新しい参加者の受け入れの可否についてふれあい・いきいきサロン（85 カ所）にアンケート調査を行った。 調査の結果、長寿サポートセンターへ、サロン情報の提供・共有、並びに長寿サポートセンターからサロン代表者への直接連絡が可能との返答があったサロンの情報をリスト化し、区内 21 カ所の長寿サポートセンターへ情報の提供・共有を図った。 H29.5.30（発送）サロン宛て 全 85 サロン 9.27（メール送信）長サポ宛て 全 21 カ所 ②多様な主体への働きかけ（地域における要支援者受け入れ） 上記（1）の調査と併せ、ふれあい・いきいきサロンへの要支援者の受け入れ可否についての調査を実施した。 【アンケート調査結果】 <table><tr><td>1 要支援者の受け入れ可能</td><td>→</td><td><u>36 サロン</u></td></tr><tr><td>2 要支援者の受け入れは難しい</td><td>→</td><td><u>9 サロン</u></td></tr><tr><td>3 応相談（受け入れの相談に応じる）</td><td>→</td><td><u>21 サロン</u></td></tr></table>	1 要支援者の受け入れ可能	→	<u>36 サロン</u>	2 要支援者の受け入れは難しい	→	<u>9 サロン</u>	3 応相談（受け入れの相談に応じる）	→	<u>21 サロン</u>
1 要支援者の受け入れ可能	→	<u>36 サロン</u>								
2 要支援者の受け入れは難しい	→	<u>9 サロン</u>								
3 応相談（受け入れの相談に応じる）	→	<u>21 サロン</u>								

随 時	③ふれあい・いきいきサロンの立ち上げ・活動支援 介護予防の観点から、地域の高齢者の居場所づくり・仲間づくりの場として、地域住民に働きかけを行い、平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末日までに、14 団体の新規サロン（高齢者・障がい者向け）の立ち上げ支援を行った。また、既存のサロンについても活動支援（助成金の交付、活動備品の貸し出し、活動へのアドバイス等）を随時行っている。 【高齢者・障がい者向けサロン総数】 <u>95 サロン</u>
29.5.18 ～30.3.12	3 関係者のネットワーク化 ①「江東区助け合い活動連絡会」への支援 区内で助け合い・支え合い活動に取り組んでいる、住民団体の実態把握と交流、ネットワーク化を目的とした「江東区助け合い活動連絡会」開催への支援を行った。 全 5 回 参加者 177 名
29.4.19 ～30.3.22	②「江東区助け合い活動連絡会・研究会」への支援 「江東区助け合い活動連絡会・研究会」に参加する、区内で助け合い・支え合い活動に取り組んでいるリーダー層の方々の互助活動への知識向上を目的とした研究会（勉強会）開催への支援を行った。 全 4 回 参加者 149 名
29.5.11 ～30.2.15	③世話人会（江東区助け合い活動連絡会役員会）開催への支援連絡会・研究会の実施前に、世話人（役員）、区、生活支援コーディネーターにて議題内容や進行、資料等についての確認を行った。 全 4 回 参加者 38 名
29.7.29 ～30.3.16	4 担い手の養成 ①地域福祉サポーター養成講座 地域課題や問題の解決に向け、生活支援コーディネーターのサポート的な役割を各地域で取り組んでいただく「地域福祉サポーター」を募集し講座を実施した。 前期（地域福祉サポーター養成）と後期（体操指導ボランティア養成）に分け、後期の対象者は前期の修了者とした。 体操指導ボランティアの育成は、ふれあい・いきいきサロンにて前年度に実施したニーズ調査のニーズに応える形で実施した。

29.7.25 ～29.10.5	②地域福祉サポーターへの活動紹介 講座を修了したサポーターは体操指導を希望するふれあい・いきいきサロンや、2ヶ月に1度開催する地域拠点にて来場された地域住民を対象に体操指導を行った。 〈地域福祉サポーター活動力所数・活動人数〉 活動力所数 21カ所 活動人数 32名 ③地域福祉サポーターの育成 養成した地域福祉サポーター27名（前年度に養成したサポーターも含む）を在住している区内4地域に振り分け、それぞれの地域で2ヶ月に一度「地域福祉サポーター連絡会」を実施し情報交換等を実施した。 5 研修・連絡会等への参加 ①研修・連絡会（情報交換会） 全7回 参加者 10名 ②地域包括運営協議会 全2回 参加者 2名 ③地域ケア会議等 全9回 参加者 12名
29.10.5 ～30.3.12	6 協議体「下町支え合い会議」の開催 総合事業において、多様な提供主体間の連携・協働による資源開発等を推進するため、定期的な情報共有及び連携強化を行う場として「下町支え合い会議」を開催した。 ①下町支え合い会議 全2回 参加者 56名 ②下町支え合い会議（幹事会） 全3回 参加者 18名
29.10.2 随 時	7 「支え合いのまちづくり」の重要性についての区民への普及・啓発地域における住民主体の助け合い活動の普及・啓発を目的とした、江東区地域福祉フォーラム（テーマ：助け合い活動の必要性）を地域別福祉セミナーと併せて企画・実施した。 全 1回 参加者 延 250名 8 相談への対応 地域における介護予防・生活支援サービスに関する相談に対応した。